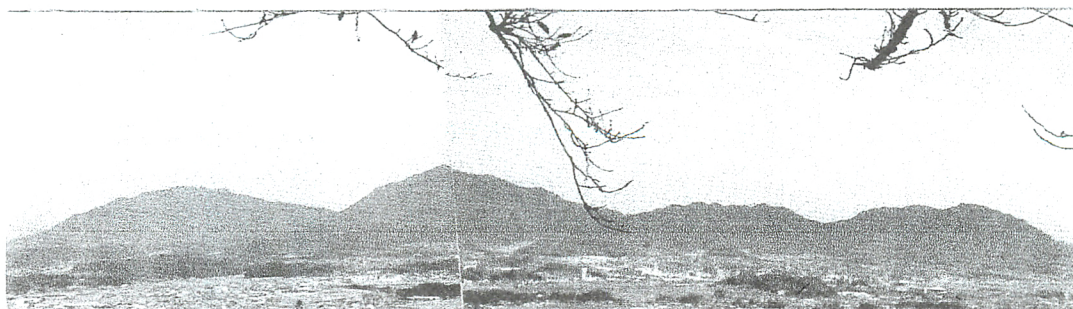


山のトイレ協議会通信

第7号



宗像四塚連峰

目	次
表紙の写真等の説明	2
第3回 定期総会 報告	3~4
宝満山山開きにおける活動報告	5
井原山水無鍾乳洞登山口での活動報告	6
講演者・太田五雄氏をご紹介するにあたって	7
記念講演・太田五雄氏 「世界自然遺産と屋久島の環境について」	8~11
県民清掃ハイク参加へのお誘い	11
運営委員会の動き	12

山のトイレ、環境を考える福岡協議会

表紙の写真の説明

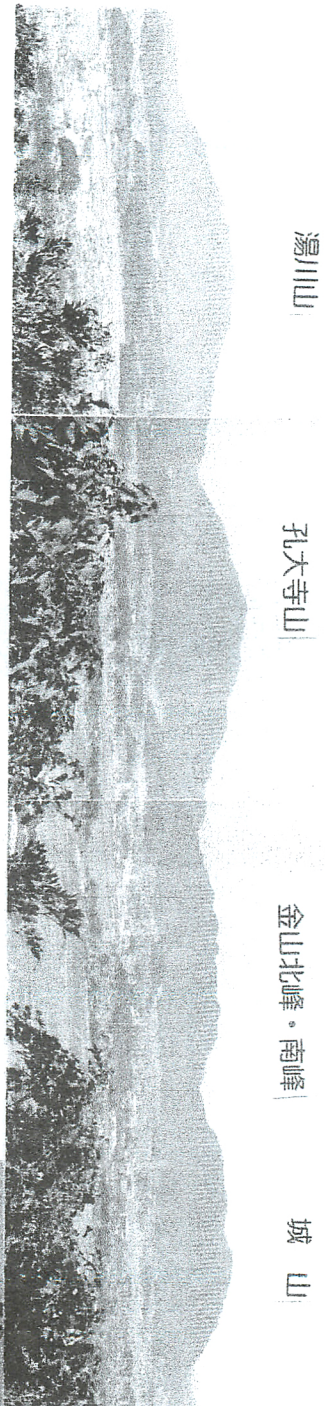
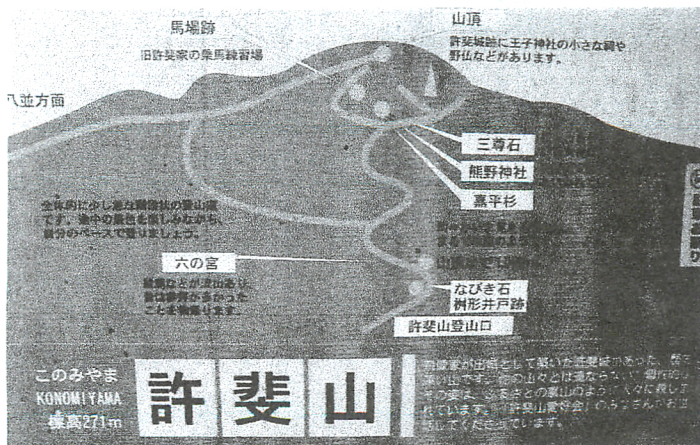
この山群はほぼ北北西に連なっている。稜線は宗像市と遠賀郡岡垣町との行政界となっている。手頃な縦走コースとして城山～湯川山を計画する人も多いが、単純に稜線が連なっていると思うと大間違い！間には、県道291号線、495号線が横切っており、登り上がって、下ったかと思うとまた登りの急坂が待ち受ける！

(まあ、よくあることだけど・・・)

徒歩時間は約7時間ではあるが、季節によってはかなりシンドイ！

撮影場所

許斐山(このみやま) 271m・山頂
城山の南西約6.6km。登山口は複数あるようだが、正面(階段が長い)登山口への道の脇にはかなりのスペースの2段の駐車場が整備されており、きれいなトイレも建てられている。歩き始めるとすぐ右手に清水の自動販売所があり、かなりの人が汲みに来ていた。結構知られた名水かもしれない。20L100円!と小さな案内板があった!(まあ、相場かな?)



湯川山

孔大寺山

金山北峰・南峰

城山

第3回 定期総会 報告

去る6月26日(日)13時から、太宰府市の太宰府天満宮にほど近い「太宰府館」3階の「まほろばホール」で開催されました。

司会を運営委員の松大路秀一氏が担当、議長を福岡県勤労者山岳連盟の平田真介氏にお願いして議事に入りました。

議事次第、活動報告等の資料については、参加者には当日会場で渡し、参加できなかった会員には、後日郵送しているのでここでの説明は割愛します。

「質疑応答」では、「活動報告」の中で、「山の水質検査」について、検査の内容に対する質問がありましたが、後日検査を主導する福岡県山岳連盟の担当者から連絡させると回答しました。

また、「規約改正」について、新たに「2年間の会費納入なき場合は、退会したものとみなす。」との条文追加の改正案に対し「単に2年間だけではその始期、終期が不明確なので、会計年度に合わせるのはいかがでしょうか?との提案があり、そのように修正する旨回答しました。他には特に異論も無く拍手をもって承認されました。

引き続き、宝満山キャンプ場のバイオトイレの使用状況について、伊藤博紀委員から、利用者のマナーが大幅に改善されてきたとの報告がありました。ただ、根本的な問題として、「山岳でのバイオトイレ」の運用成功の可否については、以前から事ある毎に触れられていますが、熱源、動力などのエネルギーを如何にして確保できるかにかかっている!建てた後が問題なんだ!と強調されていました。

総括

当協議会にとって、設立前の「山のトイレを考えるフォーラム in2007」を含めれば今回の総会は4度目の大きな集会になります。前号でも取り上げたように運営委員会では参加者の減少に危機感をもっています。今回も参加の呼びかけに努力しましたが歯止めはかからず、非会員の参加者を含め55名に終わったことは残念ですが、本来地道な活動であることを考えれば、貴重な日曜日を割いて参加して頂いた方々には敬意を表します。個人会員には総会への参加に留まらず、種々の活動に進んで参加くださるよう願ってやみません。



挨拶する山上 司 会長
(福岡県山岳連盟 理事長)

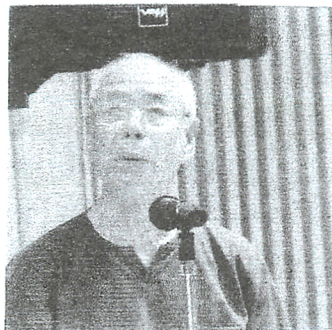
総会開催に係わった主な人たち



司会・松大路秀一委員
(竈門神社 禰宜)



議長・平田真介氏
(福岡県勤労者山岳連盟)



太田 勝 委員長
(九州登山情報センター 理事)



会計報告・高松登志子委員
(あだると山の会)



会計監査報告・貞方 岩戸氏
(竈門神社 権禰宜)



宝満山バイオトイレについて
報告する伊藤博紀委員
(西鉄山友会前会長)

宝満山山開きにおける活動報告

7月24日(日)

参加者 大日方武男 坪根正 坪根氏友人3名 久留克己 田丸恵美子 田丸さん友人3名 大塚三紀夫 朝重義彦 高井カホル 横山ミツヨ 高松登志子
計15名
西鉄山友会(主催者) 田川かたつむり山の会 2団体

竈門神社駐車場に集合し、用意した300部のマナー袋を参加者で分け、8時15分出発。正面登山道に登ることにした。暑いこの時期のせい、朝早いのに多数の下山者とすれ違う。皆さん何と！5時頃から登ったとか・・
マナー袋は山頂とキャンプセンターで配布を予定。10時15分には山頂に到着した。山頂は人があふれていた。11時の神事開始までに十分時間があつたので、手分けしてマナー袋を配布した。



山開きの祭事は初めての参加だったが、上宮の前で竈門神社の松大路禰宜により厳かに神事が執り行われた。厳粛な気持ちで、一年間無事登山することを心から願った。当協議会を代表して大日方氏が玉串を奉奠した。
祭事には百名以上の方が参列していて、近年にない賑わいとのこと。
終了後、キャンプセンターへ移動してマナー袋を配布した。

報告者：高松

井原山水無鍾乳洞登山口における活動報告

7月31日(日)

参加者 太田勝 副島勝人 大日方武男 高井カホル 酒井八重子

活動時間 9:00～12:30

8時波多江駅集合、井原山水無鍾乳洞登山口に向かって出発。

登山口に近づいていくにつれ車の駐車が下の方でいっぱいになっていた。上の駐車場に行けるか心配したが、何とか駐車スペースを確保。すでに沢山の人達で賑わっていた。。早速トイレマナー袋と会のパンフレットを手分けして登山者、オオキツネノカミソリを見に来ている人達に配った。

若い方には話しかけ、排泄物、使用済みティッシュの持ち帰りと、これから後世にも美しい山を残していかなければいけないことなどを話し、「皆さん一人一人に伝えていきましょう」とお願いした。

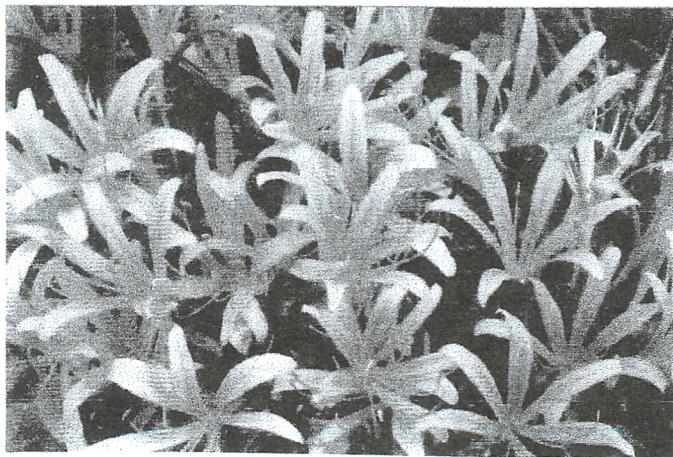
300セットも用意していたのもあっという間に終了。

トイレの周囲の草刈り、ゴミ拾い、トイレ清掃、タンクへの水入れ終了後、オオキツネノカミソリの群生地に行った。それはそれは今年は最高にきれいでした。登山路のゴミも拾ってきました。

今季、トイレが満杯になったり、鍵がかかったりして使用できなかったことなどあり、迷惑をかけたのではないかと思われますが、この水無登山口のトイレが1基でよいのか、多い時のみ増やしていただけるものなのか？その点が課題です。

季節によってどれだけの人が利用されているのか？その季節毎に調査する(昨年はオオキツネノカミソリ開花時期の3日間だけの調査)必要があるのではないかと私は思うのですが・・・如何でしょうか。

報告 高井カホル



講演者の太田五雄氏をご紹介するにあたって

今年の6月に日本山岳会の自然保護全国集
会があった。「木の芽、草の芽」という会報
があって、太田さんがパネリストとして出て
おられて略歴やプロフィールが載っていた。
大田さんは50年以上に亘って屋久島に尽く
してきたと言っても過言ではない。

多分、昭和35年ごろからではないかと思う
。1960年当時、屋久島というのは地図の
空白地帯と言われていた。多分、これが宮之
浦岳で、あれが永田岳というような概念的
な物しか無く、細かい谷筋などは分からなか
った。それらの谷筋をすべて登りつめて記録

として残し、それらが基になり昭文社から出版されているのがエアリアマップ・
山と高原地図「屋久島・宮之浦岳」である。

5万分の一地図で、登山道が赤線で示され、所要時間も書いてある。ただ、それ
が逆に今の屋久島の環境を悪化させているのではないか。

1993年に縄文杉が世界自然遺産になり、今年小笠原が同じく世界自然遺産
になった。1993年以降観光客と言ったらいいのか、登山者と言ったらいいのか
か爆発的に増えた。人間が入れば当然いろんな問題が出てくる。

最初にまずトイレの問題、登山道の問題などがあって、現在、縄文杉を中心とし
た屋久島の自然遺産というのは壊滅的な危機にあるという状況にある。

ただ、素晴らしい幽玄の世界であった屋久島を、地図上で行程をだし、登山道
まで載せた結果、多くの人たちがやってくることになり、今まで静かだった山は
大きな問題を抱えることになってしまっている。氏は、屋久島は自分にとって
山登りの原点である！その原点の山がだんだん危なくなってきたことを悔
やんでいる、と書かれておられる。そういう歴史の流れ、人々の動き、地元の
ことなども今日は触れていただければと思う。



太田氏を紹介する副島勝人委員
(日本山岳会福岡支部長)

記念講演 ・ 太田 五雄 氏 （日本山岳会所属）

演 題 「世界自然遺産と屋久島の環境について」

太田さんのプロフィールについては、司会の副島さんからご紹介があったがもう少し触れてみたい。現北九州市で育ち、工業高校を卒業後屋久島の企業に就職したことだけが、屋久島との長い付き合いのきっかけになったことは間違いないが、それだけでなく、屋久島の素朴さ、雄大さに感化されたことが山屋への道へ突き進むことになったのかもしれない。以後、屋久島にとどまらず、国内外の多くの山に挑戦してこられた。

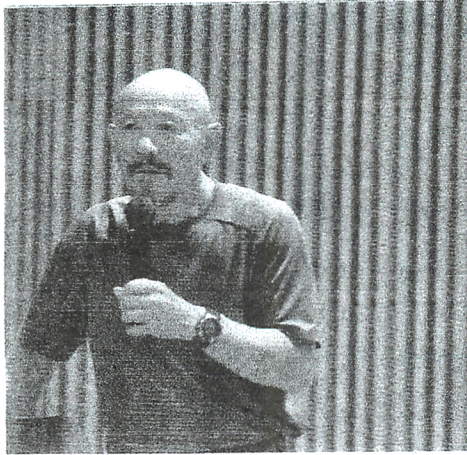
※ 先日小笠原が世界自然遺産になりました。そして平泉が文化遺産に。

個人的には、そうなったことを喜ばない方が良くと思います。地元では沸上がっている状況ですが、特に世界自然遺産に限れば、世界遺産にはしない方がいい。世界自然遺産となったことを知ったが故に、観光の地域となってしまう、沢山の観光会社がそれまでその地に何の関心も持たなかった客まで募集して次々に繰り出してきた。更に、これに輪をかけるようにメディアが沢山の報道をしたんで、「じゃあ、行ってみたいなあ！」という

程度の山などの知識の全くないお客さんが増えているんです。そこに問題そこに大きな問題があります。

エクアドルにガラパゴスっていう世界自然遺産第一号の地域があります。小さな島々で成りなっています。ここに、ソウガメという陸亀がいますがそれぞれの島で形が違ふんです。そういう所に自然遺産指定直後から観光客を中心に入島者が押し寄せ、それらの人を目当てに本土から2万人！のいわゆる金貸し業者もやってきました。入植者はいろんな家畜を持ち込んだ。





講師 太田五雄先生

それらの家畜類が世界自然遺産指定の理由の一つでもある非常に珍しい貴重な植物の中に入り、その踏圧、食害により、生態系を壊してしまい、一時危機遺産となってしまったのです。

そこで、エクアドル政府は何をしたか？いわゆる入島者、よそから来た観光業を目的とする者達を全部締め出した。連れてきた家畜類も全て整理するなど、国を挙げて改善に努めました。その結果、

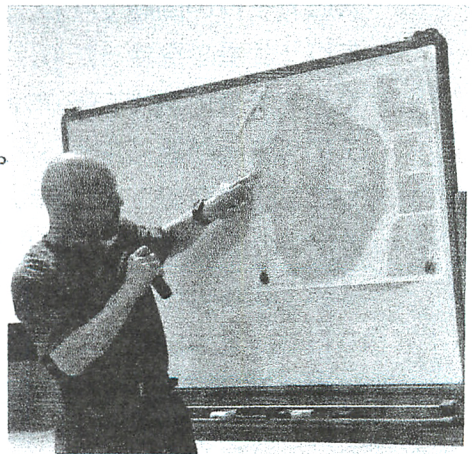
昨年7月再度、世界自然遺産に復帰しています。観光と世界自然遺産との相反する事態が問題なのです。

まさに今、屋久島はそういう危機を迎えています。

(ここで太田さん自作のDVDにより屋久島の自然を動植物を中心に約20分間の放映があり太田さんが詳細に説明をされた。余りの博識に驚かされた。内容については、太田さんが調査執筆された昭文社発行のエアリアマップ・山と高原地図・屋久島に詳しく掲載されておりここでは割愛します。)

(白板に貼ってある屋久島の地図を示し)

屋久島は、先ほども副島君から話があったように、その当時の地図には何の記号も無く、山の名も違うのが多かった。そういうこともあって、10年かけて調査し、昭和47年初版の地図を出しました。昔は猟師が鹿猟に山に入り、地名などを伝承していましたが、猟が禁止された今では、不明となった地名も多く、遠く藩政時代の古地図、文献などを調べ上げ、明のものは藩政時代の名称に戻しております。プライオリティーを大事にしようということです。



私が屋久島に移り住んだのは平成7年です。何故島に住むことにしたのかというとそれまでは結局屋久島をよそものとして外からしか見ていなかっ

たと気づいたからです。本質的なもの、内面的なものを見るには、やはり住んでみなきゃ分かんということで住みつくことにしたのです。

現在、日本山岳会の自然保護委員会、福岡支部が中心になり取り組んでいますが、世界遺産にしたことによる弊害というのはものすごく山積みしています。一つは、縄文杉のコースで、最初に作った道は人がやっと通れる位の約80センチ幅しかない。ところが、多くの人々の目的は縄文杉を見に行くことなので、見れば往路を引き返す。つまり、往復コースなんです。すれ違いが発生すると一人が道からはずれる。更に問題なのは食事をとる場所が無い。ツアーの場合に限ったことではないが、殆どのタイムスケジュールは昼を到着予定にしているので、昼食はこのあたりで、ということになるが、場所が無いので森に入り食事をとる。相次ぐ踏圧により土は粉碎されヘドロ化していく。縄文杉の場合、新聞社が写真を撮るために前面の樹を伐採してしまった。何せ大雨の島ですから、地層はかろうじて腐葉土が乗ってる程度に非常に薄く、すぐ岩です。伐採により、表土は全部流され木の根っこがむき出しになってしまった。これはいかん！ということで、根っこの間に屋久杉の屑を埋めて、1キロ運動とか言って、海砂を担ぎ上げて形なりに土止めをしました。私も立ち会ったんですが、以後樹に勢いが無い。掘ってみたら土がヘドロ化しており、腐臭さえしたので、腐葉土、パーミキュライト、活性炭を入れてやり直したら、3年後発根していました。林野庁が土を踏まないようにと現在あるデッキ様の物を作ったが、かえって景観を悪化させてしまった。

次にトイレの問題ですね。トイレについては、バイオトイレ、EM菌を使ったり、牡蠣殻を使ったり、乳酸菌を使ったバイオにしたり、オガクズにしたり、自然浄化型（TSS方式）など比較検討してみました。

エネルギーが要るかどうか、経済的な問題、メンテナンスの問題なども検討した結果、TSS方式が良いということで、淀川小屋に作ろうとしたが、ある程度の広さの土地が必要になるうえ、立木の伐採も必要となることを理由に、林野庁は許可せず実現しなかった。現在、去年から環境省が新高塚小屋に2室のトイレを試験的に作っています。来月（7月?）にも完成するんじゃないでしょうか。結局、山岳地帯でのトイレに動力は初めから考えないほうが良いのかもしれない。

ところで、屋久島はどうなっていくのか？現時点では年間40万人の人が押し寄せている。観光協会は60万人まで良いと言ってます。一昔前まで、経済的にも虐げられ、屋久島出身とは口に出せない時代が長かったが、「オレの

島は世界遺産になった！」何の努力もせず観光客があふれんばかりにやってくる。一台も無かった大型の観光バスが港にズラリ並んで客を待ちます。山の荒れ、水質の汚染など環境の保護のためにはと、大幅な入島制限、入島料の徴収など各町議会に議案提出の動きが！と一時、新聞の紙面を賑わせましたが、いずれの町議会でも全て利益代表の議員たちにより否決されました。世界遺産になって良かった！ということはありません！小笠原には一寸頑張ってもらい、知床は300人に制限しました。国は動きません！自分たちで動かなければ何も変わりません。トイレの啓蒙活動も同じです。トイレ協議会の皆さんにはぜひ頑張ってくださいものです。※講演内容については紙面の都合でかなりの部分をカットしておりますことをご了承ください。）

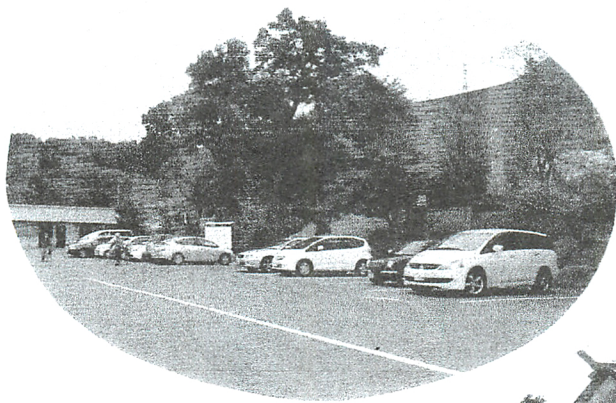
当協議会のこれからの」活動とお誘い

◎県民清掃ハイク <福岡県勤労者山岳連盟（労山）との共催で1年に2回実施>

日 時 及び 山 域 10月16日(日) 宝満山

集合時間 及び 場 所 8時30分 竈門神社駐車場

※問い合わせ 九州登山情報センター 太田 まで



竈門神社駐車場



山頂・上宮

運営委員会の動き

開催月日	議 題	場 所
5/17	*第3回定期総会での22年度活動報告(案)等討議 *5/15実施の宝満山清掃ハイクの総括	サザンピア博多
6/21	*定期総会議案(次年度活動計画検討・22年度会計報告チェック・次年度予算案検討) *パンフレット最終検討 *6/11実施された「日本山岳会全国自然保護集会・屋久島について」報告・・副島	〃
7/11	*第3回定期総会総括 *7/24(火)宝満山山開きにおける活動検討 *7/31(日)井原山水無鍾乳洞登山口でのキャンペーン活動に対する参加委員確認	〃
8/23	*7/24宝満山山開きにおける活動報告 *7/31井原山水無鍾乳洞登山口での活動報告 *パンフレット印刷完成報告	〃

山のトイレ協議会通信 第7号
 発行日 2011年9月26日
 山のトイレ、環境を考える福岡協議会
 〒818-0115
 太宰府市内山708番地
 九州登山情報センター内
 092-(928)2729